

本多静六通信

第12号

発行
本多静六博士
を記念する会

本多静六博士が大正初期に 報告した一五〇〇件の巨 樹・名木の現況と消失原因

農林水産省林野庁森林総合研究所
生産技術部育林技術科主任研究官
樋口国雄

本多静六博士が大正二年に報告した巨樹・名木の現況、生存、枯死・消失原因を巨樹・名木の保護・保全のため調査した。報告から八十五年経過した平成十年の時点で、生存率が三十九%、枯死・消滅は五十二%、不明は九%であった。生存率が高い樹種はカヤ、イチヨウ、クス等で、枯死・消滅率が高いのはマツ、シイであった。枯死・消滅原因は、不明を除けば台風、虫害、自然枯死、落雷、道路工事・建築等、火災の順に多く、戦災もあった。生存木の七十七%に何らかの保護制度があった。巨樹、名木の保護・保全には、所有者等の手厚い取り扱い、文

化財保護法の法制度による保護、樹木医、巨木フォーラム等の事業、また技術的には土壌改良、避雷針の設置、発根促進用の土盛り等が必要である。

一 はじめに

巨樹は、生物界において最大、最大重量、最長寿の存在で、我が国の森林・樹木の象徴的存在であり、文化・歴史的遺産、地域のシンボルとして生活や自然を豊かにしていく上でかけがえない価値を有すると共に、年輪等に過去の環境の状況を記録していることから古気象学の研究素材として学術的にも貴重なものである。また林業ではケヤキ等の巨樹は銘木として生産されてきた。さらに古くから信仰の対象となり、巨大桜等は観光資源としても重用である。また地球環境に重大な影響を与える炭酸ガスを長期間吸収し、炭素を固定し、自然環境保全面からも重要な資産である。これまで環境庁(2)、読売新聞(4)、芦田(1)等で報告されてきた。しかし巨樹は台風、雷、風雨、腐朽等の自然因子や、

道路・建築整備等の社会的因子で急速に減少し、保全が必要といわれている。そこで現在の巨樹が五十〜百年後になるかを把握することは重要なことであるが、一研究者ではこのような長期間の研究は不可能である。幸いなことに大正二年に本多静六博士は「大日本老樹名木誌」(以下、原著と略)で、当時の日本領(台湾、朝鮮を含む)の七十八種、一五〇〇件の巨樹・名木の名称、所在地、地上五尺の周囲、樹高、伝説等を報告している。そこで、これらの巨樹が現在どのようになっているかを調査し、現在の巨樹・名木の保全・取り扱い方の一助とする。

なお調査にご協力・ご指導いただいた多くの市町村役場、教育委員会、神社仏閣の事務所の方々、森林総合研究所、小野寺弘道博士には厚く感謝する。

二 調査方法

調査は六三七都府県市町村役場に依頼し、現

目次

- 本多静六博士が大正初期に報告した一五〇〇件の巨樹・名木の現況と消失原因 1
- 森林総合研究所 樋口国雄
- 日本一の巨樹「蒲生のクス」を見守り続けて 鹿兒島県蒲生町教育委員会 原田正己 5
- 「本多静六記念室」がオープン 9
- 記念室収蔵の資料目録一覧 10
- 緑ーサイカチの歌ー 山路木曾男 18

○本多静六博士を記念する会の事務所が移転いたしました。詳しくは末尾をご参照下さい。

現在の日本領一四七〇件の現況（生存、消失、不明）、消失原因（台風、落雷、火災、道路工事、建築、虫害等）、健全度（健全、損傷あり、枯死寸前）、胸高周囲、樹高、保護制度（天然記念物、文化財、保存樹木等）について行った。茨城県の調査は筆者が行った。一九九一年に環境庁が行った全国巨樹・巨木調査では、茨城県は調査本数が全国一であり、巨樹が多い県である。なお原著の選出基準はクス、ケヤキ、スギ、イチヨウは目通り周囲二丈（六・〇六m）以上、マツは一丈五尺（四・五五m）以上、サクラは一丈（三・〇三m）以上のもの、その他は特に誌すべき由緒、伝説を有するもの、もしくは著名な樹木であった。

三 結果と考察

平成十年三月三十日現在で得られた回答は一〇四八件で、回答率は七十一%であった。本多が報告した七十八種を原著に従って、掲載順に示すと表・1のとおりである。原著は全て漢字で表記されていたが読みにくいのでカタカナに変えた。次に主な樹種の生存、枯死、消失の内訳、生存した樹種の健全度、樹種別、枯死・消失原因、保護制度を示すと表・2、3、4、5のとおりである。

表・2を見ると、合計が一〇九〇本、三十九%が生存、五十二%が枯死・消失、不明が9%であった。調査不能が六件あったが、これは該当地の本数が多すぎて、該当木の特定が出来なかったためである。生存率の高いのはカヤ、イチ

ヨウ、クス等で、逆に低いのはマツ、シイであった。ヒノキの本数が少ないのに関しては芦田(1)は、かつて城、神社、仏閣に利用されたためであると報告している。また岐阜県根尾村にある薄墨桜のように枯死寸前を多くの先人の努力で樹勢回復した木もあった。また五代目の木もあり、イチヨウ、サルスベリなどではヒコバエで更新している木も見られた。

表・3を見ると約六割が健全で、現存するカヤ、イチヨウ、スギ、クス等が健全度が高く、シイは逆に低かった。これらのことは生存率と同様な傾向を示している。なお枯死寸前の木は5%あった。

表・4を見ると枯死・消失原因は、不明を除けば、台風、虫害、自然枯死、落雷、道路工事・建築等、火災の順に多かった。戦争による枯死消失も見られた。マツは虫害と自然枯死が著しく多いが、これはマツノサイセンチュウと樹種特性によるものと考えられる。

表・5では三三〇（七十七%）の樹木については何らかの保護制度があり、九十七本（二十三日）についてはなかった。生存木の七十七%について保護制度があることから見て保護制度は有効であると思われる。

なお、原著では樹高は丈単位で、地上五尺の周囲は間で報告されたものが多く、中には根元直径と見られる場合もあり、現在の樹高・目通り直径と比較は困難であった。

筆者は茨城県の三十九件の巨樹を調査したが、

二十一本（五十四%）が生存、十六本（四十一%）が枯死・消失、二本（五%）が不明であった。全国の調査結果と比べると生存率は高かった。生存の木には文化財保護法（天然記念物、文化財、名勝等）、市民の木、保存木による指定木が多く、ほとんどの消失・枯死木には二代目の木が植栽しており、所有者や地元の方々の巨樹に対する想いを感じた。二代目の植栽がなかった一カ所は苗木（サイカチ）が手に入らないようであった。また落雷防止のための避雷針設置、主幹折れ防止の鉄製バンド設置、桜の発根のための土盛り等の保全技術も見られた。つぎに原著には伝説が多数報告されており、これらの伝説を読みながら調査を行った。伝説の中では茨城の地に歴史を刻んだ平将門、依藤太、南朝の忠臣、那珂氏、徳川光圀と多くの巨樹・名木が関係していることが分かった。

四 結論

今回の調査で三十九%の巨樹・名木が生存していることが分かった。八十五年間の台風、落雷、水害等の自然災害、大戦、建築・道路工事、周囲危険による伐採等の社会的因子を考えれば良く残ったと思われる。巨樹・名木の保護には所有者、管理者、地域の方々の手厚い取り扱い、文化財保護法、市町村による市民の木・保存樹木（木）への指定、樹木医等の制度、国土緑化推進機構では巨樹・巨木等保全管理推進事業・巨木フォーラム（自治体の主催で巨樹の保護の為に年一回行われている会議・イベント）

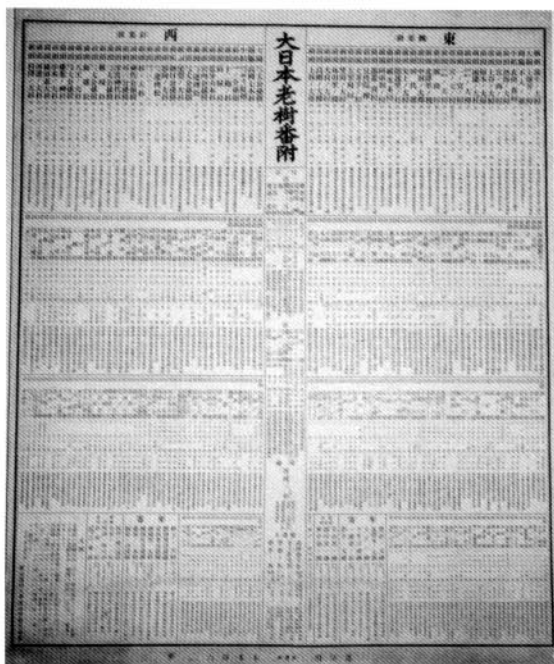
表-1 本多博士が報告した樹種名

| | | | | | |
|----|-------|----|--------|----|--------|
| 1 | クス | 27 | マキ | 53 | アンズ |
| 2 | スギ | 28 | クヌギ | 54 | シナノキ |
| 3 | ベニヒ | 29 | カシ | 55 | キンモクセイ |
| 4 | イチヨウ | 30 | ヤチモダ | 56 | アベマキ |
| 5 | シイ | 31 | カラマツ | 57 | フジ |
| 6 | マツ | 32 | ハリニレ | 58 | ビワ |
| 7 | ムク | 33 | ハリギリ | 59 | タラヨウ |
| 8 | カツラ | 34 | アカシデ | 60 | ホオノキ |
| 9 | ケヤキ | 35 | アオギリ | 61 | ヤマモモ |
| 10 | ビャクシン | 36 | アカギ | 62 | ウメ |
| 11 | エンジュ | 37 | タマグス | 63 | クルミ |
| 12 | サクラ | 38 | ムロ | 64 | ナシ |
| 13 | トチ | 39 | クリ | 65 | ボダイジュ |
| 14 | センダン | 40 | カエデ | 66 | ヒイラギ |
| 15 | エノキ | 41 | サイカチ | 67 | カキ |
| 16 | ガジュマル | 42 | モチ | 68 | ツバキ |
| 17 | シオジ | 43 | ヒバ | 69 | デイゴ |
| 18 | タブ | 44 | ホルトノキ | 70 | モクレン |
| 19 | コハテイシ | 45 | コウヤマキ | 71 | エゴノキ |
| 20 | コナラ | 46 | トドマツ | 72 | オガタマ |
| 21 | サワラ | 47 | ナギ | 73 | ハゼノキ |
| 22 | ヒノキ | 48 | クワ | 74 | ユズリハ |
| 23 | カヤ | 49 | クロガネモチ | 75 | サルスベリ |
| 24 | ヤナギ | 50 | ムクロジ | 76 | バクチノキ |
| 25 | カシワ | 51 | ソテツ | 77 | ツツジ |
| 26 | モミ | 52 | ツガ | 78 | キャザボク |

(注、3ベニヒはタイワンサワラ、19コハテイシはマレイシア原産のTerminaria cattapa、37タマグスはタブノキ、38ムロはネズミサシである。)

を行って行っているのでこのような事業の拡大が望まれる。また土壌改良、根接ぎ、避雷針、主幹折れ防止用の鉄製バンド設置、発根のための土盛りも巨樹を保全するには必要な技術である。なおスギ、マツ、ヒノキのようにヒコバエの生えにくい木に関しては早くから二代目の植栽が望まれる。

- 【引用文献】
- (1) 芦田裕文(一九九七) 巨樹紀行、一七三頁 家の光協会、東京
 - (2) 環境庁編(一九九二) 日本の巨樹・巨木林 関東一他八冊 環境庁、東京
 - (3) 本多静六(一九一三) 大日本老樹名木誌、四三四頁、大日本山林会、東京
 - (4) 読売新聞社編(一九九〇) 新日本銘木百選、二五四頁、読売新聞社、東京
 - (5) 渡辺新一郎(一九九六) 巨樹と樹齢、二九九頁、新風舎、東京
- (「日本林学会論文集」一〇九、一九九八より)



「大日本老樹名木誌」をもとに作られた「大日本老樹番附」、この内東西唯一の横網となったのが「蒲生のクス」(5頁)。

表-2 主な樹種の生存、枯死・消失の内訳(本数)

| | 生存 | 枯死・消失 | 不明 | 合計 | |
|----|------|---------|---------|--------|------|
| 1 | クス | 75(72) | 25(24) | 4(4) | 104 |
| 2 | スギ | 114(47) | 118(50) | 8(3) | 240 |
| 3 | ヒノキ | 3(30) | 5(50) | 2(20) | 10 |
| 4 | イチヨウ | 53(87) | 5(8) | 3(5) | 61 |
| 5 | シイ | 7(9) | 7(39) | 44(22) | 18 |
| 6 | マツ | 15(5) | 229(82) | 34(12) | 278 |
| 7 | ムク | 5(42) | 6(50) | 1(8) | 12 |
| 8 | ケヤキ | 34(46) | 32(44) | 7(10) | 73 |
| 9 | サクラ | 26(39) | 36(55) | 4(6) | 66 |
| 10 | カシ | 13(67) | 5(33) | 0(0) | 18 |
| 11 | カヤ | 13(92) | 1(8) | 0(0) | 14 |
| 12 | その他 | 71(36) | 99(51) | 26(13) | 196 |
| | 合計 | 429(39) | 568(52) | 93(9) | 1090 |

(注、上記の他に6件の調査不能があった。括弧内はパーセント)

表-3 生存した樹種の健全度の内訳 (単位は本数、括弧内はパーセント)

| | 健全 | 損傷あり | 枯死寸前 | 計 |
|--------|---------|---------|-------|-----|
| 1 クス | 49(65) | 22(29) | 4(5) | 75 |
| 2 スギ | 77(68) | 33(29) | 4(4) | 114 |
| 3 ヒノキ | 3(100) | 0(0) | 0(0) | 3 |
| 4 イチョウ | 38(72) | 15(28) | 0(0) | 53 |
| 5 シイ | 2(29) | 5(71) | 0(0) | 7 |
| 6 マツ | 8(53) | 5(33) | 2(13) | 15 |
| 7 ムク | 3(60) | 2(40) | 0(0) | 5 |
| 8 ケヤキ | 15(45) | 17(48) | 2(6) | 34 |
| 9 サクラ | 8(31) | 15(58) | 3(12) | 26 |
| 10 カシ | 8(62) | 4(31) | 1(8) | 13 |
| 11 カヤ | 10(77) | 3(23) | 0(0) | 13 |
| 12 その他 | 35(49) | 30(38) | 6(8) | 71 |
| 合計 | 256(60) | 151(35) | 22(5) | 428 |

(注、本調査での健全とは、樹冠がほぼ完全に幹に重大な損傷や大空洞がないものとした。)



大正2年12月に発行された「大日本老樹名木誌」

表-4 樹種別枯死・消失原因 (本数)

| | 台風 | 落雷 | 火災 | 道路工事・建築等 | 虫害 | 豪雪 | その他 | 自然枯死 | 不明 | 合計 |
|--------|----|----|----|----------|----|----|-----|------|-----|-----|
| 1 クス | 2 | 0 | 3 | 0 | 2 | 0 | 7 | 3 | 9 | 25 |
| 2 スギ | 34 | 26 | 9 | 4 | 6 | 1 | 13 | 7 | 37 | 118 |
| 3 ヒノキ | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 5 |
| 4 イチョウ | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 1 | 5 |
| 5 シイ | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 3 | 2 | 7 |
| 6 マツ | 30 | 7 | 7 | 8 | 65 | 1 | 13 | 45 | 63 | 229 |
| 7 ムク | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 6 |
| 8 ケヤキ | 5 | 3 | 1 | 6 | 3 | 0 | 10 | 3 | 3 | 32 |
| 9 サクラ | 2 | 2 | 2 | 2 | 4 | 0 | 1 | 7 | 17 | 36 |
| 10 カシ | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 5 |
| 11 カヤ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 12 その他 | 20 | 5 | 3 | 11 | 4 | 0 | 12 | 13 | 33 | 98 |
| 合計 | 97 | 44 | 26 | 36 | 85 | 2 | 59 | 83 | 171 | 568 |

(注、消失原因のその他としては、周囲危険伐採(6)、伐採(16)、売却(5)、嵐・台風(3)、水害(3)、河川工事(4)、戦災(11)、戦時供出(2)、原爆(1)、樟脳採取(1)があげられる。括弧内は本数、重複しているため合計は一致しない。)

表-5 主な樹種の保護制度 (本数)

| | 天然記念物 | 文化財 | 保存木 | 市民の木 | 他(名勝等) | なし | 合計 |
|--------|-------|-----|-----|------|--------|----|-----|
| 1 クス | 48 | 15 | 6 | 2 | 3 | 10 | 75 |
| 2 スギ | 63 | 10 | 4 | 3 | 6 | 30 | 114 |
| 3 ヒノキ | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 4 イチョウ | 32 | 7 | 3 | 1 | 1 | 11 | 53 |
| 5 シイ | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 7 |
| 6 マツ | 8 | 2 | 1 | 0 | 0 | 4 | 15 |
| 7 ムク | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 3 | 5 |
| 8 ケヤキ | 18 | 4 | 4 | 0 | 0 | 8 | 34 |
| 9 サクラ | 14 | 7 | 0 | 0 | 1 | 6 | 26 |
| 10 カシ | 7 | 1 | 0 | 0 | 1 | 4 | 13 |
| 11 カヤ | 11 | 5 | 0 | 0 | 1 | 0 | 13 |
| 12 その他 | 29 | 8 | 5 | 1 | 5 | 27 | 71 |
| 合計 | 239 | 60 | 24 | 7 | 18 | 97 | 429 |

(注、保存木・市民の木は、市町村で緑を保持するためや歴史や文化を象徴している貴重な樹木指定した木のこと。助成制度はあるが、罰則はない、重複しているため合計は一致しない。)

日本一の巨樹「蒲生のクス」を見守り続けて

国指定特別天然記念物「蒲生のクス」保護増殖事業

蒲生町教育委員会社会教育主事 原田正己

■はじめに

故郷・蒲生の大地に根づく「蒲生のクス」は、蒲生の歴史に歩調を合わせるかのように時を刻み続け、古くから蒲生のシンボルとして、また、蒲生の宝物として崇められながら、私たちの心に遠く太古の歴史を甦らせているのである。

今、蒲生の歴史を紐解くならば、この古木を抜きにしては語れず、その歴史的価値は何にも代え難いものである。悠久の歴史を刻む蒲生の

発展と成長は、この「蒲生のクス」に依存してきたとしても過言ではなからう。

■沿革・由来

蒲生町は、鹿児島県のほぼ中央部に位置する人口約七、五〇〇人の小さな町である。

薩摩古流の兵法に基づく美しく機能的な町割り、武家屋敷群が往時のまま残る町の中心部。その高台にある蒲生八幡神社境内に、日本一の巨樹「蒲生のクス」はそびえ立っている。



国指定特別天然記念物「蒲生のクス」

遡ること、今から約八七〇余年前、保安四年（一一二三）二月二十一日、蒲生院の総領職であった蒲生上総介舜清が、豊前国宇佐八幡神宮を勧請し、この地に正八幡若宮（蒲生八幡神社）を創建した。その時すでに「蒲生のクス」は神木として祀られていたという。また、伝説では、和氣清麻呂が宇佐八

幡の信託を奏上し、大隈に流されたとき蒲生を訪れた和氣清麻呂が手にした杖を大地に刺したところそれが根つき大きく成長したものが「蒲生のクス」だともいわれている。

■日本で一番大きな木

「蒲生のクス」は、大正十一年三月八日に国天然記念物に、昭和二十七年三月二十九日には国特別天然記念物に指定されている。

「蒲生のクス」は、推定樹齢約一五〇〇年、樹高三十・〇〇m、根回り三十三・五七m、目通り幹囲み二十四・二二mあるが、以前に蒲生八幡神社境内に盛土をしたため、樹の根元は約二m近く埋もれており、本当の根回りはもっと大きいものと推測される。幹の下部は凹凸が多く、幹の内部には直径約四・五m（タタミ八畳分）の空洞をなしている。また、樹木の枝張り

は東方に約十二m、西方に約十二m、南方に約十m、北方に約十九mにも広がっている。

◇全国の巨木ベスト3

| 順位 | 名称 | 所在地 | 幹回り |
|----|------------|---------|--------|
| 1 | 蒲生のクス | 鹿児島県蒲生町 | 二十四・二m |
| 2 | 阿豆佐和氣神社のクス | 静岡県熱海市 | 二十三・九m |
| 3 | 川古のクス | 佐賀県武雄市 | 二十一・〇m |
| 3 | 本庄の大クス | 福岡県筑城市 | 二十一・〇m |
| 3 | 奥十曾のエトヒガン | 鹿児島県大口市 | 二十一・〇m |

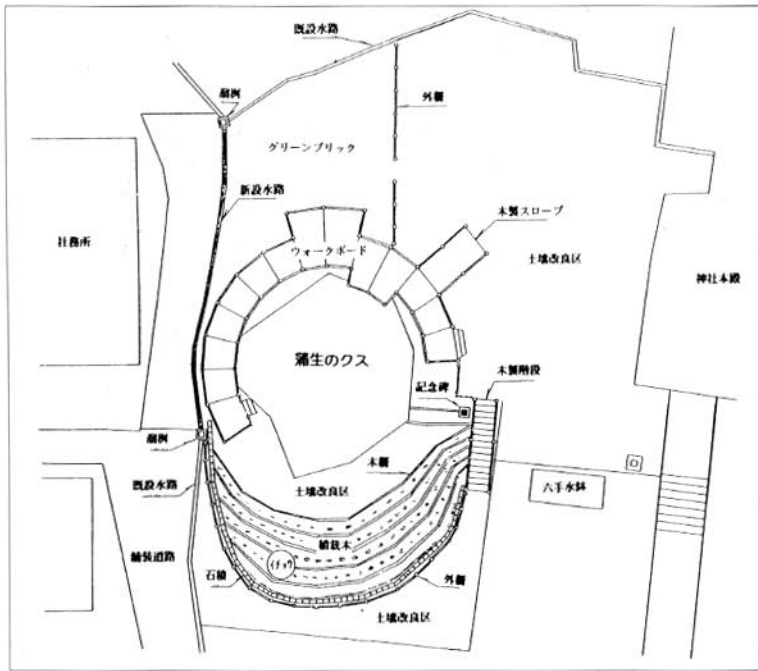
昭和58年度から平成3年度までに行われた
保護増殖事業の概要

| 年度 | 区分 | 事業名 | 経費 | 事業内容 |
|------|----|-----------------|--------------|-------------------|
| S.58 | 国 | 大クス環境整備事業 | 1270 (千円) | 外柵取付け、石積み、盛り土 |
| | 国 | 大クス土壌整備事業 | 700 | 幹への施肥、混合埋戻し |
| | — | 立入り禁止標示板作製・設置作業 | — | 樹勢保護のため柵内を立入り禁止 |
| S.59 | 町 | 大クス白蟻駆除予防工事 | 150 | 動力吹付け、幹薬剤注入、穿孔処理 |
| S.60 | 国 | 蒲生のクス樹勢回復事業① | 451 | 寒冷紗被覆、幹薬剤注入、周囲へ散水 |
| | 国 | 蒲生のクス樹勢回復事業② | 677 | 混合敷込み、混合埋戻し、施肥作業 |
| | 国 | 蒲生のクス樹勢回復事業③ | 79 | 文化庁専門指導員による現状視察 |
| H.1 | — | 蒲生のクス樹勢回復調査 | — | 樹勢は回復、新しく胴吹き芽が発育 |
| H.2 | 町 | 蒲生のクス標柱作製・設置作業 | 120 | 杉材加工品、2ヶ所設置 |
| H.3 | 町 | 蒲生のクス整枝作業 | 150 | 枯れ枝切除、薬品塗布 |
| | — | 蒲生のクス施肥作業 | 400 | 薬剤注入、混合敷込み、混合埋戻し |

部分（目通り）の幹回りが三・〇m以上ある全国の樹木を対象に巨樹・巨木調査を実施した。その結果、全国で約六万一、五〇〇本もの巨樹が確認されたが、その中で「蒲生のクス」は日本一の巨樹であることが立証されたのである。また、これより先の大正二年（一九一三）三月三日、林学博士・本多静六（埼玉県菖蒲町出身）は、自らが教授を勤める東京農科大学造林学教室で、『大日本老樹番附』なるものを発行した。その中で唯一、東の横綱に位置付けられたのが「蒲生のクス」である。その項には「横綱、蒲生の太樟、七丈三尺八寸、十五間、八百年、鹿児島縣始良郡蒲生村八幡宮」と記されている。

■「蒲生のクス」を守るために
これまでの長い歲月の中で遭遇した台風や落雷、集中豪雨などの自然災害は、「蒲生のクス」の樹勢に少なからずの悪影響を及ぼしている。これまでに蒲生町では、「蒲生のクス」が何らかの被害を受けた際の災害復旧作業として、あるいは定期的な保全対策として樹勢回復事業や樹勢保護事業さらには環境整備事業など様々な方策で「蒲生のクス」を見守り続けてきた。なお、昭和五十八年度から平成三年度までに取り組んできた国庫補助あるいは町単独による各種事業内容は次のとおりである。
このように、町のシンボルとしてそびえ立つ

「蒲生のクス」を存続させるべく様々な手立てを講じてきたが、樹勢に急激な衰えが見え始めたことは否めなかった。そこで、蒲生町では、平成六年十二月に「蒲生のクス保全調査」を実施した。これは、樹木医・荻住昇氏ら三名によって、樹根・樹幹・樹皮・土壌や樹木周辺環境などを診断したもので、この結果は「蒲生のクスの診断と所見」としてまとめられた。
平成七年度、町では単独事業で約一〇〇万円の予算を計上、「蒲生のクス保護対策調査研究事業」を実施した。これは、「蒲生のクス保全調査」の結果に基づき、今後の樹勢保護対策の策定を図るためのもので、鹿児島県森林組合連合会にその全てを委託した。ここで「蒲生のクス」保護対策検討委員会なる諮問機関が確立されたのである。メンバーは、農学博士、本県在住樹木医、文部省及び本県文化財保護審議会委員、本県林業試験場長等の委員と、文化庁文化財保護部文化財調査官、本県教育庁文化財課長等のオブザーバーに事務局を加えた二十名で構成された。そして、本会で審議・決定された内容は、国庫補助事業を受けるべく「文化財関係補助事業計画書」にまとめられたのである。
これを受けて、平成八年三月に文化庁文化財保護部記念物課文化財調査官による現地確認調査が行われ、その結果、平成八年度から四ヵ年計画に及ぶ、国指定特別天然記念物「蒲生のクス」保護増殖事業の実施が決定したのである。



「蒲生のクス」保護増殖事業全体計画図

■「蒲生のクス」保護増殖事業
当初、「蒲生のクス」保護対策検討委員会
で四カ年に及ぶ事業計画が審議決定された。
以下、各年度ごとに実施した事業内容の詳
細は次のとおりであるが、それに先立ち、事業の
全体計画(左図参照)及び単年度計画を立案した。
そして、それぞれ施工内容により作業工程を
①太枝を含む枝状部の処理、②主幹空洞内部を

含む主幹部の処理、③根系の保護と土壌改良、
と大きく三区分した上で、その全事業を四カ
年で終了できるように綿密な計画を立てた。



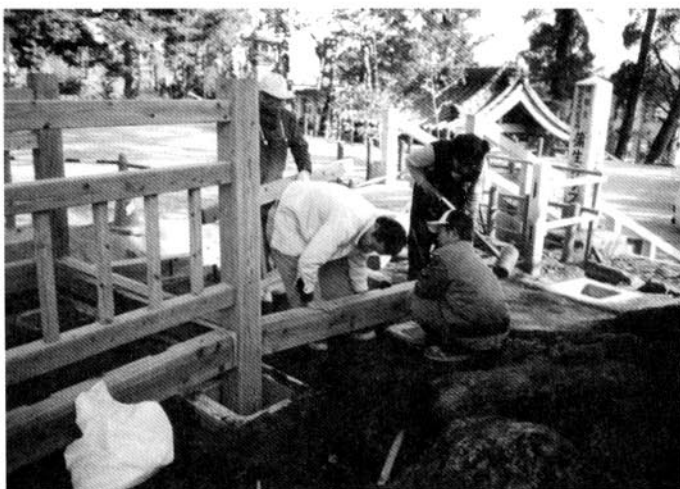
主幹開口部への格子所新設



開孔腐朽部への薬剤塗布

- 平成八年度事業
 - 【工期】一〇六日間
 - 【経費】九、四八四、二四〇円
 - 一 仮設道設置
 - ・重量作業車の乗り入れ用コンクリート道
 - 二 枯れ枝等除去
 - ・枯れ枝の切除(径三〇〜一九〇cm)
 - ・殺菌消毒(ダコニール10000水和剤)
 - ・薬剤塗布(トップジンMペースト)
 - 三 腐朽・開孔部処理
 - ・腐朽枝部の切断(約一〇〇ヶ所処置)
 - ・殺菌消毒(ダコニール10000水和剤)
 - ・薬剤塗布(トップジンMペースト)
 - ・雨水浸入のための開孔部閉塞(スカイラ
 - ンバー材による内部補強)→ステンレス網
 - 張り→ウレタン吹付け→表面整形→劣化
 - 防止用ミリオンシーラー剤塗布)
 - 四 養生植物等除去
 - ・主幹部養生植物等除去(コケ、シダ、シノ
 - ブ、ハゼノキ、ネズミモチ、クログアネモチ)
- 平成九年度事業
 - 【工期】六六日間
 - 【経費】八、七六六、四五〇円
 - 一 足場設置
 - ・作業用足場設置(外周部高約十二m、空
 - 洞内部高約八m、ピッチ高約二m)
 - 二 空洞上部ステンレス傘状防水覆の設置
 - ・殺菌防腐処置(パッチレート塗布)
 - ・傘状覆固定(ドリル孔→ステンパイプ挿

- 三 空洞内部の処理
 - ・ 腐朽部除去及び搬出(2t車×20台分)
 - ・ 主幹及び太枝空洞部計測(位置、大きさ)
 - ・ 事後処理(高圧水洗浄→殺菌消毒→トツ
プジンMペースト塗布→防腐用ウツドフ
アイン剤散布→イエシロアリ駆除→土壤
改良)
- 四 主幹表面の処理
 - ・ 開孔部閉塞(高圧水洗浄→内部補強→ス
テンレス網張→ウレタン吹付け→表面整
形→劣化防止剤塗布→擬木処理→格子戸
設置)
- 平成十年度事業
 - 【工期】一六二日間
 - 【経費】二〇、二二二、八二〇円
 - 一 事前調査
 - ・ 土壤硬度(中島式硬度計使用、二四ヶ所)
 - ・ 土壤PH(簡易測定器使用、二一カ所)
 - ・ 発芽試験(土壤改良土×ハツカ大根)
 - 二 石垣等の除去
 - ・ 樹木周囲石垣除去(高さ一・二m×外周)
 - ・ 裏込み栗石除去(2t車×20台分)
 - 三 土壤改良
 - ・ 石垣内側部分(約一七二㎡)
 - ・ 石階段撤去跡(約八㎡、火山灰土)
 - ・ 石垣南側境内部分(約一三八㎡)
 - 四 土留工等
 - ・ 木柵土留工(扇状に一m感覚で五段設置)
- 平成十一年度事業
 - 【工期】一六三日間
 - 【経費】四七、〇三〇、八五五円
 - 一 床掘り
 - ・ 齋庭及び御祓場の碎石除去及び床掘り
 - ・ アスファルト道路剥離(厚さ三〜五cm)
 - ・ 石畳除去(厚さ一〇cm)
 - 二 埋設物の除去及び移設
 - ・ 旧拜殿の基礎石(深さ三〇cm部分)
 - ・ 池跡コンクリート除去(深さ七〇cm部分)
 - ・ 水道管、埋設電線、浄化槽用配水管
 - 三 改良土の調整と土壤改良
 - ・ 母材(鹿児島県川辺町採取の黒色森林土
壤)
 - ・ 客土(母材×チャコールチップ炭×ヒュ
ームス活植源×フミロン)
 - 四 土留石積みとウォークボード
 - ・ 流水侵入防止及び土留用の切石積み
 - ・ 樹木北側半周囲に木製ウォークボード設
置(幅員二m×延長三三m、スロープ付)
 - 五 排水工とグリーンブロック設置
 - ・ 配水管トップロード及び溜柵の敷設(西
側道路部分、御祓場)
 - ・ グリーンブロックの設置及び改良土の投
- 六 その他補完工
 - ・ 木製外柵設置(齋庭と御祓場の境界線上)
 - ・ 標柱設置、説明看板設置
- 七 報告書作成
 - ・ 「蒲生のクス」保護増殖事業報告書
 - ・ 編集委員会の実施(編集執筆作業、外部執
筆依頼)国指定特別天然記念物「蒲生のクス」
保護増殖事業報告書の印刷及び発行(A4判、
一七五頁、四五〇部作成、無償配布)



踏圧防止ウォークボード設置

入(西側道路部分、御祓場)

■ 「蒲生のクス」をめぐる今後の展望

今後は、専門家（樹木医）による定期的な樹勢調査が必要である。四半期ごとに実施することが望ましいが、次の項目が調対象となる。

- ・ 樹冠の広がり
- ・ 葉の大きさ
- ・ 葉の量
- ・ 定点による土壌硬度
- ・ 特定根の大きさ
- ・ 小根や細根の伸長状況
- ・ 樹幹水分状態
- ・ 定点写真撮影
- ・ 不定芽や不定根の発生
- ・ 主幹開口部の巻き込み状況
- ・ 着生植物

これらの他、自然災害発生時における突発調査の実施や、建造物を含む周辺環境の保全にも留意していくことが必要となるであろう。

■ まとめ

蒲生町では、今回の事業完了を契機にして、今後は「蒲生のクス」の保護と活用という両面に視点を置いたうえで、新たな対策を講じていく必要がある。この歴史的遺産を保護しつつも後世に伝え残すことと、この貴重な観光資源を生かした町の発展を考えることが、現代に生きる我々に課せられた使命である。

今後は、官民一体となって、「自然と調和した町づくりをすすめるために、「蒲生のクス」を主役とする、蒲生古来の伝統的風土を守り続けていけたらと願うものである。

〒八九九一五三〇五

鹿児島県始良郡蒲生町白男三四七番地

蒲生町教育委員会社会教育主事 原田正己

「本多静六記念室」がオーブン

約五百点に及ぶ貴重な古文書や公園関係の資料を収蔵

■ 資料の閲覧には予約が必要です

菖蒲町では、平成十二年四月十七日、本多静六博士の顕彰事業の一環として、菖蒲町生涯学習文化センター（通称「アミーゴ」）の一室に「本多静六記念室」（17頁参照）を整備しました。記念室には、博士の年譜をはじめ、肖像画や写真、胸像のオリジナル、東京山林学校時代の自筆の学習帳、ドイツ留学時の洋行日誌、博士が設計した全国各地の公園の写真など貴重な資料の数々が展示してあります。

また、これとは別に、平成四年から町で収集してきた資料や博士の生家折原家に残る書簡を中心とした古文書類、及び本多家文書、東京大学所蔵の公園関係の文献（写真）など様々な資料を収蔵しています。これらの資料の一部は展示されていますが、その多くは書庫に収められ、事前予約により閲覧することが出来ます。

通信第12号では、現在記念室に収蔵されている資料の目録をご紹介します。閲覧を希望される方は、原則として閲覧を希望する日の二週間前までに記念する会事務局までご連絡ください。

■ 記念室所蔵資料の概要

記念室に収蔵されている資料は大きく分けて

四つに分類することができます。

一つは、平成四年に始まった博士の顕彰事業により調査・収集した資料の一群である百五十一一点。二つ目は東京大学農学部林学科森林風致計画研究室所蔵の文献の写し七十四点。三つ目は、御令孫本多健一氏宅より寄託されている資料七十点。そして四つ目は博士の生家である折原家より寄贈された折原家文書六十点、といった内訳となります。

これら四群の合計は三百五十点となりますが、関係する書類・写真等を一括して目録化しているため、実際の資料点数はこれを上回るものとなっております。凡そ五〇〇点の資料が、記念室に収蔵されています。

■ 目録本文10〜17頁の見方（凡例）

単に「No.」とあるのは資料の通し番号で、次にある「資料No.」が実際に閲覧する番号となります。また、「資料No.」のみのものもあります。「年代」は、資料が実際に作成されたときの年代の他、調査した年月日、資料を入手したときの年月日を示します。

「資料内容」は、「」については書籍類、「」については論文の表題等を示します。また適当な件名がない場合は（ ）で意味を補いました。

「差出人・作成者」は、資料の作成者（著者）の他、資料の寄贈者、送付者等を表します。

■本多静六博士を記念する会所蔵資料目録

(10)

| No. | 資料No. | 年 代 | 資 料 内 容 | 差出人・作成者 |
|-----|-------|------------|---|---------------------------|
| 1 | 2 | 明治34. | 「小笠原の森林に就いて」(『大日本山林会報第217号』所収)・複写 | 本多静六 |
| 2 | 12 | 明治38.7.1 | 「埼玉学生誘掖会会員名簿」(明治38,大正3,昭和3,6,10,11,12,32,の各年・9冊) | |
| 3 | 58 | 明治45.5.8 | 「飯能遊覧地設計」・複写(H6.5.23送付) | 飯能遊覧地委員会 |
| 4 | 90 | 大正2.3.3 | 「大日本老樹番付」縮小コピー | |
| 5 | 135 | 大正6.7.26 | (在職二十五周年記念・自著書籍謹呈にあたっての挨拶文)・複写 | 本多静六→藤村久 |
| 6 | 13 | 大正15.9.15 | 『東京帝国大学農学部千葉演習林造林実習日誌2』(H11.4.21複写) | 本多静六 |
| 7 | 115 | 大正 | (大滝村での集合写真・本多静六の娘婿三浦伊八郎入写、年代不詳) | 山口喜三氏寄贈 |
| 8 | 87 | 昭和3.1.10 | 「天然公園 森林公園-国立公園-高原保養地-海岸保養地-農村山村の美化-」 (H7.12.22大津市立図書館より複写) | 雄山閣 |
| 9 | 94 | 昭和4.8.28 | 『直に幸福となる処世の秘訣』(*京都古美術商より購入) | 本多静六講述 |
| 10 | 93 | 昭和5.2.1 | 『幸福とは何ぞや 附子孫の幸福と努力主義』 | 帝国森林会 |
| 11 | 101 | 昭和10.7.15 | 『幸福とは何ぞや 附子孫の幸福と欲望の本体』・複写 | 帝国森林会 |
| 12 | 105 | 昭和24.9.25 | 「本多静六自叙伝 上・中・下」(『サンデー毎日』所収) | |
| 13 | 104 | 昭和25.7.31 | 東京大学秩父演習林作業所訪問者芳名帳・本多静六分複写 | |
| 14 | 48 | 昭和27.3. | 「わが国立公園の功労者本多静六博士逝く」(佐藤尚武)及び「本多翁のことども」 (三浦伊八郎)・複写 (『国立公園』所収) | 国立公園協会会長 |
| 15 | 139 | 昭和30(頃) | 『中津川県有林記録』及び「森林経理研究会資料」「本多静六述・財産告白」の 複写 *博士寄贈の中津川県有林の一連の流れを示す貴重な資料 | H.4.8.26大滝村元助役 山口喜三氏提供 |
| 16 | 140 | 昭和37.2.28 | 「すぐに幸福になれる法-私の財産告白・私の生活流儀-」・複写 | 実業之日本社 |
| 17 | 47 | 昭和37.2. | 「魯迅の目にうつった日本人-本多静六-」(『日本文学』所収) | 尾上兼英 |
| 18 | 55 | 昭和37.3. | 「本多静六先生」(日林協刊『林業先人伝』所収)2部の内1部は堀岡小枝子氏H7.2.2寄贈 | 中村賢太郎 |
| 19 | 75 | 昭和37.11.30 | 「体験八十五年」・複写 (『世界ノンフィクション全集』所収) | (株)筑摩書房 |
| 20 | 79 | 昭和43.5.15 | 「彰義隊の主唱者伴門五郎」・複写 | 蕨郷土史研究会 |
| 21 | 129 | 昭和48.9.10 | 『日比谷公園松本楼の歩み』及び日比谷公園写真 | 日比谷松本楼・小坂祐弘 |
| 22 | 44 | 昭和57.5. | 「林学会の巨星・本多静六博士」(『電電ジャーナル』所収)・複写 | 三浦和彦 |
| 23 | 107 | 昭和58.11.1 | 『埼玉県人会七十年史』及び「入会のしおり」 | 埼玉県人会 |
| 24 | 49 | 昭和63.4.18 | 本多博士を題材とした畑和知事訓示2件(昭和63,平成元年) | 埼玉県知事畑和 |
| 25 | 86 | 平成2.3. | 『JR東日本の歴史的建造物』及び「野辺地鉄道防雪林」関係資料 | JR東日本盛岡支社・柳谷正勝氏寄贈 |
| 26 | 66 | 平成2.9. | 『大宮公園思い出の写真集』及び「公園パンフレット」 | 大宮公園事務所 |
| 27 | 83 | 平成4.1.28 | 本多静六名誉町民議案並びに参考資料、本多健一氏礼状 | 臨時町議会 |
| 28 | 30 | 平成4.2.13 | 本多静六顕彰事業を始めるにあたっての先進地視察依頼及び礼状 | 町長→古川市教委 |
| 29 | 32 | 平成4.4.15 | 「ユリノキ」に関する資料・新宿御苑管理事務所 | |
| 30 | 29 | 平成4.5.11 | 「本多静六博士を記念する会」創立会議資料一式 | |
| 31 | 18 | 平成4.8.3 | 本多静六博士胸像碑文(起案文) | |
| 32 | 46 | 平成4.8.26 | 大滝村調査関係資料及び嵐山渓谷写真 | |
| 33 | 31 | 平成4.8. | 学生時代に本多博士の講義を聴講した浅野重栄門さんに関する資料 | |
| 34 | 134 | 平成4.9.28 | 「本多静六博士パンフレット」印刷製本契約書一式 | |
| 35 | 112 | 平成4.10.8 | 野田・清水公園と本多博士に係る若干の社内資料・複写 | (株)千秋社 |
| 36 | 20 | 平成4.10.22 | 本多博士胸像除幕式関係綴一式 | |
| 37 | 21 | 平成4.10.22 | 本多博士胸像除幕式・偲ぶ会写真集 | |
| 38 | 103 | 平成4.10. | 本多静六通信創刊に伴う自筆原稿(島田得一、三浦道義、細田嘉) | |
| 39 | 122 | 平成4.10. | 本多静六子孫住所氏名一覧、及び本多峯子新聞訃報記事 | |
| 40 | 88 | 平成4.11.2 | 「小林金林業文献センター」パンフレット及び『山林』1302号 | 大日本山林会 |
| 41 | 108 | 平成4.11.2 | ドイツ関係パンフレット一式、及びターラント山林学校関係資料 | ドイツ文化会館 |
| 42 | 77 | 平成4.12.1 | 諸井恒平と本多静六(社史及び日記類からの複写) | 秩父セメント広報室 |
| 43 | 43 | 平成4.12.8 | 本多静六について語る河原井地区有志座談会(於河原井出荷所) | |

| | | | | |
|----|-----|--------------|--|-----------------|
| 44 | 23 | 平成 4. | 本多静六顕彰事業（胸像整備）に伴う事業調整費（県費補助金）関係書類一式 | |
| 45 | 131 | 平成 4. | 「平成いちよう百話“首かけイチョウ”」 | 日本グリーンウェブ(株)鴨脚会 |
| 46 | 41 | 平成 5. 2. 3 | 明治神宮調査資料 | |
| 47 | 56 | 平成 5. 2. 18 | 野辺地鉄道防雪林調査書類一式（平成 5 年以降の資料も在中） | |
| 48 | 78 | 平成 5. 2. 19 | 後藤新平記念館関係資料（大正12.2.20 付本多自筆書状・写真含む） | |
| 49 | 99 | 平成 5. 3. | 『鉄道林 1 0 0 周年記念写真集』 J R 東日本 | |
| 50 | 39 | 平成 5. 8. 29 | 金沢「卯辰山公園」関係資料 | |
| 51 | 54 | 平成 5. 10. 26 | 「野辺地防雪林 1 0 0 年の歴史」（『東奥日報』新聞切抜き H5.9.30～10.16） | JR 東日本盛岡支社・柳谷氏贈 |
| 52 | 84 | 平成 5. 11. 11 | 福島県会津若松市「鶴ヶ城公園」関係資料一式 | |
| 53 | 73 | 平成 5. 11. 24 | 三箇小開校 120 年式典及び本多博士胸像除幕式関係資料一式（嶺先生「追想記」） | |
| 54 | 26 | 平成 5. 12. 2 | 「本多静六博士と各教科・領域」（『研究紀要』所収） | 三箇小学校 |
| 55 | 42 | 平成 5. 12. 6 | 本多静六原戸籍、除籍簿、及び親戚関係系図 * 本多健一氏宅写真共 | |
| 56 | 109 | 平成 5. 12. 15 | 「埼玉往来」（本多博士を偲ぶ） | 埼玉県人会 |
| 57 | 24 | 平成 5. | 「道徳年間指導計画」及び「道徳教育・郷土資料集と授業展開例－本多先生－」 | 三箇小学校 |
| 58 | 25 | 平成 5. | 「学校の歴史と本多静六博士」（『特別活動年間指導計画』所収） | 三箇小学校 |
| 59 | 27 | 平成 5. | 「三箇小学校で学んだ本多静六博士」（『国語科読み物集・ゆりのき』所収） | 三箇小学校 |
| 60 | 33 | 平成 5. | 郷土教材（『国語科年間指導計画』所収） | 三箇小学校 |
| 61 | 67 | 平成 6. 2. 23 | 大分県湯布院町関係資料一式 | |
| 62 | 80 | 平成 6. 2. 28 | 大滝村「三峰モミ」に関する資料一式 | 大滝村・山口喜三氏 |
| 63 | 16 | 平成 6. 3. | 「東京大学演習林 100 周年記念千葉演習林」 | 東大農学部付属演習林 |
| 64 | 60 | 平成 6. 4. 11 | 「であいの記憶」（『由布院温泉発展策』に言及） | 湯布院町中谷健太郎 |
| 65 | 116 | 平成 6. 5. | 彩の国ふれあいの森設置本多博士胸像解説文 | 埼玉県 |
| 66 | 5 | 平成 6. 6. | 「首かけ銀杏の運命」・複写（『This is YOMIURI』所収） | 東京都参事 中島宏 |
| 67 | 74 | 平成 6. 11. | 新潟県笹神村「村杉温泉」関係資料一式（調査当時の博士の集合写真共） | |
| 68 | 100 | 平成 6. 11. | 青森県小牧温泉渋沢公園関係資料一式 | |
| 69 | 28 | 平成 6. | 河原井幸福寺 写真並びにサイカチ「五香湯」に関する資料 | |
| 70 | 81 | 平成 7. 1. 17 | 広島県尾道市千光寺公園（尾道公園）に関する資料一式 | 尾道市教育委員会 |
| 71 | 130 | 平成 7. 1. | 「春採公園と本多博士」（『TALK GALLEY』所収） * 春採公園写真共 | 釧路市史佐藤宥紹 |
| 72 | 14 | 平成 7. 2. 2 | 本多静六写真（晩年①書齋にて読書、②畑仕事の様子、③詰め襟姿の教授時代） | 堀岡小枝子氏寄贈 |
| 73 | 102 | 平成 7. 5. 11 | 『改正日本森林植物論（大正11.3）』及びテレビ放送を見ての反響（投書・FAX） | |
| 74 | 72 | 平成 7. 9. 19 | 『ザクセンにおける日独自然科学の交流の伝統』（阪上正信氏寄贈） | ドレスデン工科大学 |
| 75 | 1 | 平成 7. 10. 9 | 福岡県「大濠公園・東公園・西公園」調査関係書類一式 | |
| 76 | 106 | 平成 7. 10. | 埼玉県東京事務所を通じての全国公園所在調査関係書類 | |
| 77 | 89 | 平成 7. 11. 17 | 『森林公園と有馬温泉風景利用策』（大正5.11.14）及び『治水の根本策と神戸市背山に就いて』（昭和10.2.23） | 神戸市土木局公園緑地部計画課 |
| 78 | 52 | 平成 7. 12. 22 | 広島県廿日市市「桂公園」関係資料一式 | 廿日市市建設部都市整備課 |
| 79 | 97 | 平成 8. 2. 4 | 日曜版・小学生のページ「ドイツの小学校と植物を通し交流」（三箇小学校） | 読売新聞 |
| 80 | 34 | 平成 8. 7. ～ | 「亜流・本多静六伝（渋谷克美）」（『協会だより』所収） | 埼玉造園業協会 |
| 81 | 114 | 平成 8. 8. 23 | 北九州市「清滝公園資料」（FaX資料） | 北九州市建設局緑政課 |
| 82 | 82 | 平成 8. 9. 8 | 三箇小での嶺一三・相川行雄対談による文化講演会「本多先生の思い出」一式 | |
| 83 | 136 | 平成 8. 10. 21 | 「本多静六先生を偲んで」 | 相原行雄氏 |
| 84 | 68 | 平成 8. 10. 21 | 「大沼公園改良案」・複写（彩の国ふれあいの森管理事務所） | |
| 85 | 110 | 平成 8. 10. | 「讀・本多静六博士」自筆原稿 | 日本画家関根将雄氏 |
| 86 | 59 | 平成 8. 11. 3 | 昭和25年 7 月本多静六秩父演習林訪問時のようすの聞き取り調査書類 | 馬場 宏氏 |
| 87 | 132 | 平成 8. 11. 3 | 晒布（六尺） * 本多博士が晩年山登りの時に使用したものと同じ紐で、当時同行した馬場宏氏より寄贈されたもの | |

| | | | | |
|-----|-----|------------|---|----------------------|
| 88 | 64 | 平成 8.11.25 | 北海道七飯町「大沼国定公園」調査関係書類一式 | |
| 89 | 65 | 平成 8.12.16 | 土倉庄三郎関係書類一式 | 奈良県上川村教委 |
| 90 | 61 | 平成 8. | 「明治神宮の森」「樹の命を守る・日本樹木医会 (H8.4)」 | 小山千秋氏寄贈 |
| 91 | 113 | 平成 8. | (全国の公園名称等の調査確認) | |
| 92 | 91 | 平成 9. 2. | 「公園一覧記念碑」原稿 | |
| 93 | 19 | 平成 9. 3. 4 | 公園一覧記念碑設置除幕式に至る資料一式 | |
| 94 | 38 | 平成 9. 3. 4 | 昭和13年1月本多博士揮毫天津小湊町記念碑資料一式 | 天津小湊町役場 |
| 95 | 37 | 平成 9. 3.15 | 「まちづくりの話題」(本多博士顕彰事業の紹介) | (財)都市計画協会 |
| 96 | 62 | 平成 9. 3.25 | 茨城県水戸市「偕楽園」並びに一橋家調査関係資料一式 | |
| 97 | 119 | 平成 9. 4.10 | 本多静六記念切手の発行の件についてー関東郵政局との話し合いからー | |
| 98 | 40 | 平成 9. 4. | 「本多静六博士の功績」(『アクセスさいたま創刊号』所収) | 埼玉中小企業振興公社 |
| 99 | 95 | 平成 9. 4. | 「公園一覧記念碑を建設」(『月刊公園緑地建設産業』所収) | 日本造園タイムス社 |
| 100 | 3 | 平成 9. 5.14 | 「ザクセンにおける日独自然科学交流の伝統」ドイツ語版及び日本語版 | 阪上信次氏寄贈 |
| 101 | 50 | 平成 9. 6. 6 | 開発行為事前協議について(折原金吾氏宅地内の開発)、販売チラシ | 都市計画課 |
| 102 | 69 | 平成 9. 6.11 | 「鹿児島県蒲生町 '96町勢要覧」並びに町長からの手紙 | |
| 103 | 96 | 平成 9. 7. | 「日本の公園の父」本多静六(『地方財政』所収) 地方財務協会 | |
| 104 | 117 | 平成 9. 9.12 | (本多健一氏叙勲に伴う調書送付依頼) | 文部省 |
| 105 | 4 | 平成 9.10. | 「志賀泰山と『化学最新』ー日本林学の先駆者が記した化学書ー」(『山林』) | 阪上信次氏 |
| 106 | 70 | 平成 9.11. 2 | 「諸井家一般公開資料」他(本庄駅北口まちづくり研究会) | |
| 107 | 63 | 平成10. 3.20 | 長野県小諸市「懐古園」調査関係書類一式 | |
| 108 | 35 | 平成10. 9. | 「須坂いま・昔(臥竜公園と本多博士)」及び「須坂市立博物館だより」 | 長野県須坂市博物館 |
| 109 | 111 | 平成10. 9. | 「本多静六通信」配付者名簿及び「洋行日誌」送付希望者名簿 | |
| 110 | 17 | 平成10.10. 1 | 愛知県「岡崎公園」関係書類一式 | 岡崎市中央総合公園 事業室 中根氏 |
| 111 | 123 | 平成10.10.23 | 「洋装への道」及び「男子大礼服について」(植木淑子) | 文化学園服飾博物館 |
| 112 | 118 | 平成10.12.15 | 本多健一氏日本学士院会員に(新聞記事及び町祝電へのお礼) | |
| 113 | 22 | 平成10. | 東京工芸大学案内資料 | 本多健一氏贈 |
| 114 | 57 | 平成10. | 「本多博士が大正初期に報告した1500件の巨樹・名木の現況と消失した原因 | 森林総研樋口国雄 |
| 115 | 85 | 平成11. 2. 8 | ①東京都水道局『水源80年の歩み』「第3節水源林経営の変遷」・複写 ②「多摩の森と水と共に」(鳥嘉寿雄) | 林野庁森林保護対策 室・関氏寄贈 |
| 116 | 7 | 平成11. 2.24 | 名古屋市「中村公園」調査関係書類一式 | |
| 117 | 8 | 平成11. 2.25 | 名古屋市「鶴舞公園」調査関係書類一式 | |
| 118 | 9 | 平成11. 2.25 | 岐阜県「養老公園」調査関係書類一式 | |
| 119 | 51 | 平成11. 2.26 | 岐阜県「岐阜公園」調査関係書類一式 | |
| 120 | 45 | 平成11. 3.15 | 「日本植物学者寿命番付」 | 金沢市里美信生 |
| 121 | 15 | 平成11. 3.17 | 長岡安平関係資料一式(日比谷公園の設計比較、ランドスケープ抜刷り) | 長崎県大村市長岡安 平顕彰会 |
| 122 | 36 | 平成11. 3. | 本多静六通信自筆原稿(元お茶水大学教授遠山益、日本樹木医会副会長 横川登代司、元東京農工大学長阪上信次) | |
| 123 | 11 | 平成11. 4. 5 | 埼玉学生誘掖会調査関係書類一式 | |
| 124 | 10 | 平成11. 4.21 | 東京大学千葉演習林調査関係書類一式 | |
| 125 | 71 | 平成11. 7. 7 | 『もうひとつの湯布院発展策』『さらば夢みるとんび達』 | 木谷文弘 |
| 126 | 6 | 平成11.10. | 「平成11年度本多静六博士奨学金のしおり」 | 埼玉県農林部林務課 |
| 127 | 98 | 平成11.11.28 | 「21世紀への伝言1・本多静六」 | 埼玉新聞 |
| 128 | 126 | 平成11.12.1 | H12.5.20開催第51回埼玉県植樹祭関係資料(会場:菖蒲町) | |
| 129 | 128 | 平成11.12.20 | 静岡県西伊豆町堤氏宅調査準備資料(未調査・本多静六写真を含む) | |
| 130 | 53 | 平成12. 1.31 | 講演資料「本多静六翁の新人生計画」他 冊子『善意のひろば』 | 弁護士・税理士西垣義明 |
| 131 | 124 | 平成12. 2.25 | 東京山林学校跡地写真(東京都北区王子滝野川公園) | |
| 132 | 92 | 平成12. | 本多静六記念室(パンフ用)写真 | |

(13)

| | | | | |
|-----|-----|-----------|--------------------------------------|--------------|
| 133 | 76 | | 写真集「世紀の転換点（19世紀から20世紀）におけるターラント」 | *阪上信次氏より借用複写 |
| 134 | 120 | | 各種新聞切抜きコピー | |
| 135 | 121 | | 東京大学農学部造林学教室所蔵本多博士関係資料目録 | |
| 136 | 125 | | 彩の国ふれあいの森管理事務所所蔵本多博士関係資料目録 | 本通信12号13～14頁 |
| 137 | 127 | | (土倉庄三郎と本多静六との関係) | |
| 138 | 133 | | 「中津川県有林と本多静六博士」パンフレット 県農林部林務課 | |
| 139 | 137 | | 「本多静六通信」に伴う礼状等封書葉書一括（1） | |
| 140 | 138 | | 「本多静六通信」に伴う礼状等封書葉書一括（2） | |
| 141 | 141 | | 東京大学農学部所蔵資料及び河原井折原家文書接写フィルム・ネガ〔紙製箱〕 | |
| 142 | 142 | | 青年期～晩年の各写真、生誕地記念園、ターラント、その他参考写真・接写ネガ | |
| 143 | 143 | 大正12.2.20 | 書状（新宿・浜野茂氏鴨場一件につき、本多静六→後藤新平） | |
| 144 | 144 | 平成12.10. | 「まちづくり人国記・本多静六」（『地域開発ニュース』所収） | |
| 145 | 145 | 平成6.10.7 | 日比谷公園現況平面図 | |
| 146 | 146 | 平成6.9.24 | 釧路・春採公園調査関係書類一式 | |
| 147 | 147 | 平成4.2. | 宮城県古川市「吉野先生を記念する会」資料一式 | |
| 148 | 148 | 平成6.10.21 | 大滝村東大演習林及び彩の国ふれあいの森収集資料目録 | |
| 149 | 149 | 平成12.8. | 幸手市・金子家明治神宮献木一件及びテレビ埼玉ビデオテープ | |
| 150 | 150 | 平成12.10.3 | 長崎県大村市・長岡安平シンポジウム資料一式（復命書共） | |
| 151 | 151 | 平成12.3. | 「蒲生のクス」保護増殖事業報告書（鹿児島県蒲生町教育委員会） | |

■ 記念室所蔵東京大学農学部文献(写真)目録

【本多静六先生論説及び公園設計集】 東京大学所蔵の文献は写真撮影したものをプリント製本したものです。

| 資料No. | 年代 | 資料名 |
|-------|------------|---|
| 1 | 大正10(1921) | Japanese Gardens as Portraying National Characteristics |
| 2 | 不詳 | 今後の文化的庭園 |
| 3 | 〃 | 理想的都市計画 |
| 4 | 〃 | 大地震大火事に対する安全策 |
| 5 | 大正10(1921) | 風景の利用と天然記念物に対する余の根本的主張 |
| 6 | 昭和7(1932) | 日比谷公園新設当時ノ思出 |
| 7 | 不詳 | 森林公園と奥秩父（中津峡）の景勝 |
| 8 | 〃 | 隠れたる木曾の風景と利用策 |
| 9 | 〃 | 広島市の発展策特に風景の利用 |
| 10 | 昭和4(1929) | 前橋市敷島公園計画案 |
| 11 | 大正15(1926) | 小諸公園（懐古園）設計案 |
| 12 | 大正14(1925) | 福岡県経営東公園・西公園・大濠公園改良計画 |
| 13 | 不詳 | 各国の公園、運動場、登山地其の他保健的施設 |
| 14 | 〃 | 第三次台湾巡遊所感 |
| 15 | 〃 | 海外に於ける国立公園及び森林公園の実況 |

【本多静六先生公園設計集】

| 資料No. | 年代 | 資料名 |
|-------|------------|---------------|
| 16 | 大正5(1916) | 釧路公園設計案 |
| 17 | 不詳 | 室蘭公園設計ノ大要 |
| 18 | 大正6(1917) | 若松公園設計方針 |
| 19 | 不詳 | 日光一帯の山水風景利用策 |
| 20 | 大正6(1917) | 埼玉県の県是と園芸 |
| 21 | 不詳 | 埼玉県氷川公園改良計画 |
| 22 | 大正15(1926) | 文化生活卜川越市ノ都市計画 |
| 23 | 大正2(1913) | 明治神宮建設ノ位置ニ就テ |
| 24 | 不詳 | (小冊子等広告) |

| | | |
|----|------------|-------------------------------|
| 25 | 大正4(1916) | 市街地「特ニ本所区」ノ樹木ト人生 |
| 26 | 大正10(1921) | 村杉ラジウム温泉風景利用策 |
| 27 | 大正14(1925) | 福井県武生蘆山公園設計図及び説明書 |
| 28 | 明治44(1911) | 軽井沢遊園地設計方針 |
| 29 | 大正10(1921) | 職業の道楽化と日本バーデン |
| 30 | 大正15(1926) | (長野県)須坂町公園設計案 |
| 31 | 不詳 | 木曾風光調査概要 |
| 32 | 大正15(1926) | 名称保存と千本松原 |
| 33 | 不詳 | 日本葉因風景の利用策 |
| 34 | 大正6(1917) | (愛知県)清洲公園設計案 |
| 35 | 大正6(1917) | (愛知県)岡崎公園設計案 |
| 36 | 大正6(1917) | (愛知県)中村公園改良策 |
| 37 | 不詳 | (岐阜県)養老公園改良案 |
| 38 | 明治45(1912) | 森林公園と琵琶湖風景利用策 |
| 39 | 大正2(1913) | 大阪府公園ノ改良方針 |
| 40 | 大正5(1916) | 森林公園と有馬温泉風景利用策 |
| 41 | 大正4(1915) | 和歌山公園設計案 |
| 42 | 大正4(1915) | 大典記念尾道公園の設計 |
| 43 | 大正8(1919) | 広島県備後国帝釈風景利用策 |
| 44 | 大正3(1914) | 錦帯橋を中心とする岩国風景利用策 |
| 45 | 大正3(1914) | 大典記念下関日和山公園設計書 |
| 46 | 大正13(1924) | 大分県速見郡由布院温泉発展策 |
| 47 | 昭和6(1931) | 熊本市郊外江津湖を中心とする敷地計画殊に其の公園系統に就て |
| 48 | 不詳 | 付、都市研究会会則 |
| 49 | 昭和9(1920) | (鹿児島県)霧島公園計画 |
| 50 | 大正6(1917) | 京城府南山公園設計案 |

【本多静六先生論説集】

| 資料No. | 年代 | 資料名 |
|-------|------------|---------------------|
| 51 | 大正5(1916) | 天然記念物と老樹名木 |
| 52 | 大正4(1915) | 記念植樹の手引(一名大木移植法) |
| 53 | 不詳 | 記念樹ノ保護手入法 |
| 54 | 不詳 | 大地震大火事大海嘯に対する安全策と公園 |
| 55 | 明治43(1910) | 根本的治水策 |
| 56 | 不詳 | 林相の変化と国産の関係 |
| 57 | 〃 | 市町村有林の価値と森林公園 |
| 58 | 大正13(1924) | 森林の民衆化と森林公園 |
| 59 | 大正10(1921) | 土倉翁造林頌徳記念 |
| 60 | 不詳 | 林業の進化 |
| 61 | 大正14(1925) | 山林と人生 |
| 62 | 明治41(1908) | 大增訂民林改良法講話 |
| 63 | 昭和6(1931) | 温泉場の経営法 |
| 64 | 不詳 | 幸福の真諦 |
| 65 | 昭和7(1932) | 私の人生観 |
| 66 | 昭和4(1929) | 直に幸福になる処世の秘訣 |
| 67 | 不詳 | 世界文化の大勢と青年の覚悟 |
| 68 | 大正12(1923) | 世界経済界の大勢と南米植民の実行案 |
| 69 | 大正13(1924) | 世界文化急先鋒北米所感 |
| 70 | 不詳 | 爪哇(ジャワ)及び馬來(マレー)旅行談 |
| 71 | 大正6(1917) | 樺太経営私案 |
| 72 | 不詳 | 規那樹の性質及栽培法 |
| 73 | 〃 | 林業の進化特に山林の園芸化経済化に就て |
| 74 | 明治34(1901) | 林業談筆記(高知県農会報号外) |

(15) ■ 記念室所蔵本多家文書目録

| No. | 資料No. | 年代 | 形状 | 資料名 | 差出人(作成者) |
|-----|-------|-----------|----|--------------------------------|---|
| 1 | 23 | 明治17.3. | 冊 | 多々羅先生講義 幾何学 | 折原静六筆記 |
| 2 | 28 | 明治17.夏 | 冊 | 夏期休暇中 代数学温習録 | 折原静六 |
| 3 | 9 | 明治18. | 冊 | 幾何学画法思考録(東京山林学校学寮=於テ) | 折原静六 |
| 4 | 19 | 明治18.夏期 | 冊 | 薬物学 総論及金属初部 | 鈴木孝之助述 |
| 5 | 8 | (明治) | 冊 | 松本收先生講義 無機化学卷之壹 | 折原静六筆記 |
| 6 | 20 | (明治) | 冊 | 松本先生講 無機化学卷之壹 | 折原静六筆記 |
| 7 | 21 | (明治) | 冊 | 松本先生講義 無機化学卷之貳 | 折原静六筆記 |
| 8 | 10 | (明治) | 冊 | 物理学問題第一号 | 折原静六 |
| 9 | 14 | (明治) | 冊 | 安本先生講義 植物学卷之壹 | 折原静六筆記 |
| 10 | 22 | (明治) | 冊 | 植物学第二篇 解剖学之部 | |
| 11 | 25 | (明治) | 冊 | 藤山治一郎先生講義森林動物学第一 | 折原静六筆記 |
| 12 | 24 | (明治) | 冊 | 滝田鐘四郎先生講義 動物学第二篇 | 折原静六筆記 |
| 13 | 17 | (明治) | 冊 | 多々羅怒平先生講義 物理学卷之壹 | 折原静六筆記 |
| 14 | 16 | (明治) | 冊 | 多々羅先生講義 物理学卷之三 | 折原静六筆記 |
| 15 | 18 | (明治) | 冊 | 多々羅怒平先生講義 物理学卷之四 | 折原静六筆記 |
| 16 | 12 | (明治) | 冊 | 志賀泰山先生講義 物理学卷之五 | 折原静六筆記 |
| 17 | 26 | (明治) | 冊 | The Golden Book on English | 折原静六筆記 |
| 18 | 27 | (明治) | 冊 | 東京山林学校教授心得中隈敬三講義 経済学 | 学生折原静六筆記 |
| 19 | 32 | (明治) | 冊 | 管波先生教授 代数学卷之壹 | 折原静六筆記 |
| 20 | 31 | (明治) | 冊 | 代数学卷之二 | S. Orihara |
| 21 | 30 | (明治) | 冊 | 東京山林学校助教授学士石田二男雄講義 代数学卷之三 | 学生折原静六筆記 |
| 22 | 29 | (明治) | 冊 | 東京山林学校助教授学士石田二男雄講義 代数学卷之四 | 折原静六筆記 |
| 23 | 34 | (明治) | 冊 | 東京山林学校助教授白井光太郎講義森林植物学第一・第二篇 | 学生折原静六筆記 |
| 24 | 35 | (明治) | 冊 | 林学博士中村弥六口述 測樹学完 | 学生折原静六 |
| 25 | 11 | (明治) | 冊 | 林学通論 第一 | 本多静六 |
| 26 | 15 | (明治) | 冊 | 普通動物学 第三 | 本多静六 |
| 27 | 33 | (明治) | 冊 | forststatik 全 | S. Honda |
| 28 | 13 | (明治) | 冊 | 字漏生国農業比例経済書 | |
| 29 | 36 | (明治) | 冊 | (ドイツ語学習帳) | 本多静六 |
| 30 | 37 | (明治) | 冊 | (幾何学学習帳) | 本多静六 |
| 31 | 39 | (明治) | 冊 | 脇水学士講義 地質学第一 | 本多静六筆記 |
| 32 | 38 | (明治) | 冊 | 地質学 第二篇 | 本多静六筆記 |
| 33 | 200 | (明治) | 状 | 権太領有ノ実ヲ完カラシムル方法ニ就テ | 林学博士 ¹⁾ 外 ²⁾ 本多静六 |
| 34 | 75 | 明治45. | 冊 | 明治四十五年度 利別第一代二牧場会計並ニ日誌報告 | 北海道造林合資会社 |
| 35 | 2 | 昭和27.1.30 | 状 | 弔詞 (助埼玉学生誘掖会会頭石坂泰三) | |
| 36 | 1 | 昭和27.2.8 | 状 | 弔辞 (東京都知事安井誠一郎) *本多の業績を分りやすく解説 | |
| 37 | 3 | 昭和27.2.8 | 状 | 弔辞 (国土緑化推進委員会委員長長林譲治) | |
| 38 | 4 | 昭和27.2.8 | 状 | 弔辞 (日本林学会会長吉田正男) | |
| 39 | 5 | 昭和27.2.8 | 状 | 弔辞 (日本造園学校会長丹羽鼎三) | |
| 40 | 6 | 昭和27.2.8 | 状 | 弔辞 (日本林業協会会長衆議院議員大村清一) | |
| 41 | 7 | 昭和27.2.8 | 状 | 弔辞 (帝国森林会副会長藤原銀次郎) | |
| 42 | 40 | 昭和27. | 状 | 追悼歌 (三首) | 卯三郎 |
| 43 | 293 | 明治24. | 写真 | ドイツ・ターラント山林学校写真 | |
| 44 | 292 | 明治36.6. | 写真 | 林学実科三年級一同 | |
| 45 | 290 | 明治38. | 写真 | 東京帝国農科大学林学科卒業生 | |
| 46 | 285 | 明治39.10.1 | 写真 | 埼玉学生誘掖会寄宿舎第二周年記念会 | |
| 47 | 291 | 明治43.7. | 写真 | (卒業生との記念写真) | |
| 48 | 283 | 不祥 | 写真 | (山林局前での記念写真) | |
| 49 | 284 | 不祥 | 写真 | (農科大学教授連との記念写真) | |
| 50 | 286 | 不祥 | 写真 | (明治神宮・東京市小学校児童献木運搬) | |
| 51 | 287 | 不祥 | 写真 | (明治神宮での移植風景・松と線路) | |
| 52 | 288 | 不祥 | 写真 | (福島県福島町公園竣工式) | |

| | | | | | |
|----|-----|------------|----|-----------------------|-------|
| 53 | 289 | 不祥 | 写真 | (農科大学林学科卒業生との記念写真) | |
| 54 | 294 | 昭和9. | 油絵 | 本多静六博士肖像画 | Y. M. |
| 55 | 295 | 不祥 | 油絵 | (台湾での現地踏査の様) | |
| 56 | 296 | 不祥 | 遺品 | 木靴(明治神宮竣工の際に使用) | |
| 57 | 297 | 不祥 | 遺品 | 烏帽子(明治神宮竣工の際に使用) | |
| 58 | 298 | 不祥 | 遺品 | シルクハット (専用箱共) | |
| 59 | 299 | 不祥 | 遺品 | 大礼服一式 (専用桐箱共) | |
| 60 | 300 | 明治28.7. | 冊 | 勲章佩用心得 附叙勲者履歴届出心得 | 賞勲局 |
| 61 | 48 | 昭和24.7.15 | 書籍 | 『健康長寿生活と私の人生学』 | 本多静六著 |
| 62 | 50 | 昭和25.12.10 | 書籍 | 『立ち上がる法 人生裏面史実話身の上相談』 | 本多静六著 |
| 63 | 49 | 昭和26.8.15 | 書籍 | 『私の体験成功法』 | 本多静六著 |
| 64 | 45 | 昭和27.2.15 | 書籍 | 『本多静六体験八十五年』 | 本多静六著 |
| 65 | 47 | 昭和27.2.15 | 書籍 | 『私の生活流儀』 | 本多静六著 |
| 66 | 43 | 昭和31.10.5 | 書籍 | 『人生計画の立て方』 | 本多静六著 |
| 67 | 46 | 昭和31.10.5 | 書籍 | 『私の財産告白』 | 本多静六著 |
| 68 | 41 | 昭和53.9.15 | 書籍 | 『幸福成功健康長寿の秘訣』 | 本多静六著 |
| 69 | 44 | 昭和53.9.15 | 書籍 | 『幸福成功人生設計の秘訣』 | 本多静六著 |
| 70 | 42 | 昭和58.2.25 | 書籍 | 『幸福成功わが蓄財の秘訣』 | 本多静六著 |

■ 記念室所蔵折原家文書目録

| 資料NO | 年 代 | 形状 | 資 料 名 | 差出人(作成者) | 受取人 |
|------|------------|----|--|-----------|-----------------|
| 1 | 明治17.1.31 | 状 | (年齢未記入のため入学願返却) | 東京山林学校庶務掛 | 折原静六 |
| 2 | 明治17.2. | 状 | (東京山林学校私費入学につき校中諸規則遵守 請書雛型並に入学試験科目) | | |
| 3 | 明治18.3.5 | 綴 | 東京山林学校景況記 | 静六 | 兄上(金吾) |
| 4 | 明治18.9.12 | 状 | (進級証書並に賞金授与につき) | 折原静六 | 兄上(金吾) |
| 5 | 明治18.9.26 | 綴 | (東京山林学校生活近況報告につき) | 静六 | 兄上(金吾) |
| 6 | 明治18.10.26 | 綴 | (学校生活近況報告、志賀・松本ドイツ留学の件) | 折原静六 | 兄(金吾) |
| 7 | 明治18.11.3 | 状 | (島村家での兄との面会、近況報告) | 静六 | 母上 |
| 8 | 明治19.2.6 | 状 | (定期試験終了につき近況報告) | 折原静六 | 折原金吾 |
| 9 | 明治19.2.6 | 状 | (東京山林学校第七級修了証書) | 東京山林学校長松野 | 折原金吾 |
| 10 | 明治23.3.25 | 状 | (静六ドイツ留学出発につき上京御礼) | 本多 晋 | 折原金吾 |
| 11 | 明治23.3.27 | 状 | (静六ドイツ留学出航につき第一報) | 本多銚子 | 折原金吾 |
| 12 | 明治23.4.11 | 状 | (ドイツ留学出航につき第二報) | 本多銚子 | 折原兄上 |
| 13 | 明治23.4.21 | 状 | (静六ご厄介に相成につき礼状) | 本多 銚 | 折原御老人 |
| 14 | 明治23.4.26 | 状 | (静六ドイツ留学公開安全の由につき) | 本多 銚 | 折原兄上 |
| 15 | 明治23.3.23 | 冊 | 洋行日誌 卷壺 (ドイツ留学) | 本多静六 | |
| 16 | 明治23.6.23 | 冊 | 洋行日誌 卷二 (ドイツ留学) | 本多静六 | |
| 17 | 明治24.10.5 | 状 | (東京農林学校卒業証明書) | 農科大学長松井直吉 | |
| 18 | 明治24.10.7 | 状 | (徴兵一件につき書状) | 本多 晋 | 折原金吾 |
| 19 | 明治25.5.4 | 綴 | (洋行日誌の内学位授与式の景況) | 本多 晋 | 折原金吾 |
| 20 | 明治26.1.7 | 状 | 体格検査成績書 (本多静六) | 東京体格検査所 | |
| 21 | 明治26.1.13 | 状 | (静六徴兵並に銚子出産につき) | 本多 晋 | 折原金吾 |
| 22 | 明治26.1.19 | 状 | (静六近衛歩兵徴収の儀につき願) | 本多 晋 | 徴兵署 |
| 23 | 明治26.1.25 | 状 | (静六志願兵の件につき) | 本多 晋 | 折原金吾 |
| 24 | 明治26. | 状 | 陸軍一年志願兵本多静六 | 本多静六 | |
| 25 | 明治40.3.1 | 冊 | 欧米再遊記 | 本多静六 | |
| 26 | 天明7.6.28 | 片 | 御乎船御用触元檻札 (木製) | 一橋領地方役所 | 河原井村長百 姓長左衛門 |

(17)

| | | | | | |
|----|------------|-----|-----------------------|-----------------|------|
| 27 | 大正 4. 5.13 | 書籍 | 『実地造林の秘訣』 | 本多静六・三浦書店 | |
| 28 | 大正12. 9. 1 | 葉 | (大地震につき見舞状・コピー) | 本多静六 | 諸井恒平 |
| 29 | 昭和16.10. | 書籍 | 『幸福なる生活』 | 本多静六・主婦の友社 | |
| 30 | 昭和17. 6.24 | 書籍 | 『決戦下の生活法』 | 本多静六・主婦の友社 | |
| 31 | 昭和24. 6.30 | 書籍 | 『新人生観と新生活 第三篇』 | 本多静六・伊豆美書房 | |
| 32 | 昭和24. 7.15 | 書籍 | 『健康長寿生活と私の人生学』 | 本多静六・佐竹書房 | |
| 33 | 昭和26.11. 1 | 書籍 | 『千万人のバイブル人間経』 19冊 | 本多静六・日本農林社 | |
| 34 | 昭和33. 9.27 | 状 | 折原致一家家屋平面図 | | |
| 35 | 昭和37.11.30 | 書籍 | 『体験八十五年』(全集第36巻) | 本多静六・筑摩書房 | |
| 36 | 昭和42. 9.14 | 新聞 | 人と風土・盆栽師藤樹園浜野元介さん | 朝日新聞 | |
| 37 | 昭和45. 5. 8 | 新聞 | 枯死寸前の天然記念物 (幸手のマキ) | サンケイ新聞 | |
| 38 | 昭和49. 1. 1 | 新聞 | 太陽で“夢の燃料”(本多健一氏) | 朝日新聞 | |
| 39 | 昭和52. 4.22 | 新聞 | まちかど新風土記「彰義隊上・中・下」 | 読売新聞 | |
| 40 | 昭和52.12. 7 | 新聞 | 27年ぶり甦る本多流蓄財術 | 夕刊フジ(立花証券福園副社長) | |
| 41 | 昭和53. 4.23 | 新聞 | まちかど新風土記「鎌倉街道嵐山二人の恩人」 | 読売新聞 | |
| 42 | 昭和59.11. 4 | 新聞 | 歴史人物風土記 本多静六博士 (大宮公園) | 埼玉新聞 | |
| 43 | 昭和61. 9.16 | 新聞 | 交遊抄「林業への信念」(諸戸精文) | 日本経済新聞 | |
| 44 | 昭和63.10. 3 | 新聞 | 洪沢栄一翁の残した埼玉学生誘掖会 | 朝日新聞 | |
| 45 | 昭和 | 綴 | 諸井君とセメント会社創設当時の思出 | 諸井会長と大友社長 | |
| 46 | 昭和 | 綴 | 「本多静六先生」(『林業先人伝』所収) | 中村賢太郎 | |
| 47 | 平成元.12.27 | 新聞 | 「新・日本銘木百選」決まる | 読売新聞 | |
| 48 | 平成 2. 2. 8 | 新聞 | 利根川物語「本多静六」 | 埼玉新聞 | |
| 49 | 平成 2. 6.21 | 新聞 | さいたま歴史散歩・近代の群像本多静六 | | |
| 50 | 平成 3. 3.15 | ガイド | 本多博士と天麩羅 (市川良一) | 埼玉往来 | |
| 51 | 平成 3. 5.15 | ガイド | 県人会七十年史補遺・本多静六氏 | 埼玉往来 | |
| 52 | 昭和 | 綴 | 諸井社長挨拶(会社創立の歴史)、その他 | 秩父セメント五十年史 | |
| 53 | 平成 4. 3.13 | 新聞 | 学士院賞に10氏 (本多健一氏を含む) | 新聞 | |
| 54 | 平成 4. 7.24 | 綴 | 野辺地防雪原林のしおり写 | 秩父セメント広報室 | 折原金吾 |
| 55 | 平成 4. 9. 3 | 新聞 | 本多静六氏の顕彰事業 | 埼玉新聞 | |
| 56 | 平成 6. 4.18 | 新聞 | コラム・さきたま抄 (本多静六) | 埼玉新聞 | |
| 57 | 平成 7.11.20 | 綴 | 『ふるさと人物誌』中、本多静六分 | さきたま出版会 | |
| 58 | 昭和15. | 写真 | 本多家折原家親戚集合写真 | | |
| 59 | 昭和18. | 写真 | 折原家全景写真 | | |
| 60 | 大正 2. 3. 3 | 状 | 大日本老樹番付(横55×縦67/Cm) | 東京農科大学造林学教室 | |



本多静六記念室 (アミーゴ・菖蒲町生涯学習文化センター2階)
 ☎346-0106 埼玉県菖蒲町菖蒲85-1 ☎0480-87-1377 FAX0480-87-1399
 開室時間 9:00~17:00 (入場無料)
 休館日 火曜日。ただし、休日にあたるときは、その直後の休日でない日。年末年始 (12月29日から1月3日まで) 及び臨時休館日
 交通 JR高崎線桶川駅東口より東武バスで「菖蒲車庫」行き、又はJR宇都宮線久喜駅西口より東武バスで「菖蒲仲橋」行きに乗りし「菖蒲仲橋」で下車。徒歩7分。東北自動車道久喜ICより車で約20分。



縁
—サイカチの歌—

山路 木曾男

私は、かつて、次のような短文を書いたことがある。

「初秋の集い」の帰途、Nさんとコーヒー店に寄った。そこには、すでに、先客として、集いの会で挨拶された方々が、一隅で談笑しておられた。私達がお先に失礼することになったから挨拶をかねお席の方に行き、私は名刺を差し出した。名刺を見ながら、その方は「埼玉県の縁と清流の考え方は本多静六の思想だ」と言われた。どこで、その様なことが本多先生にながっているのか私には判らぬが、意外であっ



大学教授時代の本多博士（佐藤まつ子さん提供）

た。本多静六（一八六六一—一九五二）が埼玉県出身であるのに、今日的な県民に、もつと、その思想を紹介してもよさそうなものだと、近頃思っていたから、この方も私と同じ気分であると嬉しかった。特に、秩父の広大な山林を県へ寄贈され、その収益が、本多育英資金として運営され、多くの県民の子弟が先生の知的恵みを今でもうけている。不思議な縁で、私の長男もそうであった。

実は、私は、先生が伊東で暮らしておられる時、一度お目にかかった。その日からほぼ、一年二ヶ月後に亡くなられたから、晩年の先生からお話を聞いたことになる。当時、私は百科事典に名前が出ている方々で、生存されている人に機会を見つけてはお目にかかり、お話を聞いた。幸い本多先生の場合は、先生のお孫さんと親しかったから、是非にと、無理にお願いして連れて行ってもらった。

先生は、日当たりの良い小さな家に住んでおられた。お孫さんは先生を恐れて、ピリピリしていたが、私は自然体のつもりであった。部屋に案内されると、先生は、私だけに、その頃は、まだ、珍しかった電気座布団を勧められた。それから、アインシュタイン（一八七九—一九五五）と共に、世界平和大学をある国に建設し、アインシュタインが学長で、私は事務総長になる計画案であると言われ、その大学の位置と学園の図面、アインシュタインのサイン入りの手紙を見せて下さった（このことは、本多先生に

極めて近い方も御存知ないまま、現在に至っている）。また、近くに、当時住んでいた有名な女優の名前を言われ、この人と、近頃は世間話をしたり、雑誌社から依頼されている人生相談をしていると実に楽しそうであった。人づてに、先生は独特のホルモン漬と称する漬物に熱中しておられることを、知っていたから、その話題でもと考えていたが、当時の私はまだ、少々真面目であった。先生に研究者としてのこれから進み方について質問した。すると、「まず、英語会話を修得すること。現に私は、平川唯一のカムカム英語をやっています。」と近頃のテキストに比べて雲泥の差のあるペラペラのテキストを見せられた。「それから、量子学と造林の研究では、造林の失敗の歴史を調べることがある。」と答えられた。

私達が帰りますと言ったら、自著にサインをして下さった。その本の名は『処世の秘訣』で、その字が柳田国男先生の筆跡と似ていたから、ただ、何となく、本多先生も一流の人物であるとその時感じた。

先生に別れて、その本を大切に持って、バスの停留所まで来た。やっと緊張がとけ、お孫さんとやれやれと言いながら、「Uさん、さき程先生が量子学を勉強せよと言われたが、何ですか量子学って」。当時、恥かしいがその学問のことは、全く、不明であった。「何だろ、爺さん変なことを言ったネ…、鉄砲撃ちの獵師（量子）でもあるまいし…」御自身で、天に向かって大

きな笑い声をあげられた。そこは、伊豆の晩秋の空で、あの日は特に思い出が深い。ときは、昭和二十五年十一月二十九日であった。そして、現在、後年大学教授になられたUさんも、すでに、この世の人ではない。

文中にあるUさんは、植村誠次博士（一九一五～一九八一）であり、極めて近い方とは佐藤敬二博士（一九〇三～一九九一）である。佐藤さんは本多先生を師と仰ぎ、このことは後で述べる引用文や、「本多静六通信第8号」で、奥様の佐藤まつ子氏によって鮮明に、それらのことが綴られている。佐藤さんは尊敬する先生を祖父に持つ、植村さんを親身になって指導されていた。その頃、植村さんは樹木の根瘤菌の研究を、目黒の研究室と、本郷の大学とを行き来して実験を繰り返しておられた。佐藤さんは御自身で、理化学研究所の、有名な物理学者、仁科芳雄博士（一八九〇～一九五二）の実験室のサイクロトロンを利用して、林木種子に中性子を照射して、苗木の形態の変化の研究をしておられ、私や同輩の尾崎嘉彦君（一九二四～一九九八）と共にお手伝いをしていた。

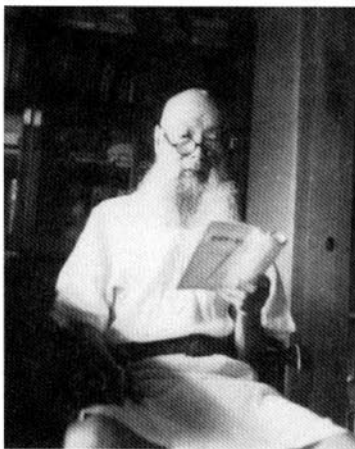
今度この原稿を書くために資料を調べていたら、本多先生の少年期に遊ばれたサイカチの樹が今でも存在しているようだが、その実験の中に、スギ、ヒノキ、クロマツなどの他にサイカチが含まれていて、照射によりサイカチのトゲに変化があったことを佐藤さんが発見された。

私はそこに不思議な縁を感じて、この標題とした。理由は、その現象の発見を、十分にサイカチを観察していなかったために報告が遅れ、尾崎君と共に佐藤さんから叱られたからである。それも懐かしく爽やかな思い出である。研究室の佐藤、植村、尾崎各先輩は既に空の彼方の人である。留学生であった中国人二名は多分生きていると思うが消息がない。彼らはきっと大陸で、あの頃の目黒の研究室のピンと張りつめた学問的雰囲気を追憶していると信じている。彼らに日本語の文章の読み書きを教えた。例えば太平洋横断を彼らは、太平洋ヨコダンと読んだ。佐藤さんは、「本多造林学」や「森林家必携」などの先生の著書に協力されたことを「糊と鉄」という表現で、笑いながら言われた。技術とか学術書は横文字を訳したり、図表が多いから、自然と能率を考えると原稿用紙に貼り付けるのが普通である。数々の先生の著作を見るととき私にはなるほどと納得出来る。佐藤さんが九州大学を退官されたある日、私は福岡を訪れた。その頃の佐藤さんは温和で壮年時代を知る私を驚かせた。その時人生の借金を返すのだと、昔の協力者でなくなった人達のお墓参りと、宗教の勉強をしておられた様に思えたのは、私に「人生は見てござるだよ」と言われた。お宅を辞する私を玄関まで送る途中で、「ちよっと」と言って再び家の中に戻られ、私に、小さい箱を持って来て渡された。私は墓の中の音をコトコト聞きながら博多駅に向い、車中でそれを開けて見た

ら、御自身の下袴の時の首に手拭いをまき、汗をかいておられる横顔の銀のメダルであった。それを渡された時「孫に、おじいさんも頑張っているということを知らせたかったから」と言われたことが私には身にしみた。

晩年、佐藤さんから「本多静六先生の思い出」が送られて来た。永く先生の近くにおられた方であるから先生を見る着眼点が素晴らしい。引用させて頂くことにした。

あくせくと、日常煩瑣のうちに、さながら馬車馬のように走ってきた八十余年、ふと身辺を見渡せば、親しかった同門の先輩知友のほとんどはすでに鬼籍に入り、寥寥として天を仰ぎたくなる。これが生き残った者の宿命とでもいうべきであろうか。想起起こせば、恩師本多静六先生が逝かれて三十有余年、奇しくも最後の門弟の名を汚しえた私にも、忘れられない思い出は尽きない。（中略）



晩年の本多博士（堀岡小枝子さん提供）

先生は一見、日蓮を想わせる風貌で、生涯を詰め襟服と風呂敷包みでおし通された。その清楚なお姿と、外出時のインバネス（外套）に洋傘がシンボルマークであった。なにびとに接するにも悠揚せまらぬ温顔、慈愛あふるる同上の眼差し、明朗洒脱な話術、人を魅了する卓絶した指導力など、他の追隨を許さない無比独特のものであった。

私は読んでいて、血はあらせえない。植村さんにも、いつも逢いたくなつて来る先生に似た魅力があり、植村さんの人柄が今日でも一層なつかしく思える。佐藤さんは先生のおうらかさを書いておられるが、先に一寸書いた佐藤さんの奥さんも、先生が「本多だ、本多だ」と原稿料を佐藤宅へ直接届けられるところを先のエッセイに書いておられるが、植村さんも同じ様に親切であった。私が療養生活をした時、土曜の午後の病院に度々奥さんの手作りのご馳走を持つて大きな声で私の名前を呼びながら、植村さんは見舞に来てくださった。

先生が私に英語でなく英会話の勉強をせよと言われたことは、つい先日テレビを見ていたら、日本の自動車工場での英会話の特訓を見て、日本も、ここまでできたのかと考えさせられた。また、先生が量子生物学の勉強と言われたのは、多分、近年の分子生物学のことだったと理解している。これら、誠実で、親切で、獨創性は埼玉の県民性のようなが、先生の人間性と業績にはその

原風景がそこにあるように思われる。私のように他県から来た者はそのことはよくわかる。環境が人間性を支配し、風土がそれらを表現（県民性）する。これが生態学の要因の一つであるとするならば、私は埼玉県の代表的人物は、国学者塙保己一（一七四六―一八二一）と渋沢栄一（一八四〇―一九三一）と本多静六であると言っているが、後者の御二人には先見性のある人物という共通点があるように思える。私は先生にお目にかかった時、まさか、先生が生まれれた埼玉に住むとは思ってもいなかった。いま、この県の風土の恵みを受け平穩に暮らす日々、私は、そこにも何か縁を感じる。（二〇〇〇年十一月二十日）

【参考資料】○山路木曾男・「本多静六先生のこと」（埼玉風景・埼玉風景クラブ・昭和63年1月）、○山路木曾男・「樹木と人」（人間の心理・明玄書房・平成3年3月）、○佐藤まつ子・「本多静六先生の思い出」（本多静六通信第8号・平成8年12月）、○佐藤敬二・「本多先生の思い出」（林経協日報・昭和60年6月）、○宮城音弥・「日本人の性格」（県民性と歴史的人物・朝日新聞・昭和44年8月）

【著者略歴】一九二三（大正12）年三重県に生まれる。農林省林業試験場造林研究室、植生研究室を経て、瀬戸内の緑化研究に従事。樹芸研究室長で退官。日本特用林産振興会主任研究員、ユニシステム・コンサルタント技術顧問、雑誌さわやか樹医さん主幹、現在自由業。

編集後記

第12号の発刊に当り、顧みれば発会十周年、そして博士の五十回忌の年となります。

夢中で過ぎた十年ですが、原稿や資料等、無料のままのご依頼にもかかわらず、博士のご高徳に対して報恩の誠を以ってご執筆戴き、血脈の温かさを感じさせられます。心から敬意を表します。

山路木曾男様には、御身の不自由を押して、代筆の文章に、渾身の加筆をなさってお送り下さいました。一同感動の内に編集させて頂きました。

本誌もITの時代を視野に今後の方途や会の運営等、模索して、改善、充実に図って参ります。それにしても発信源の資料が基本です。関係各位のご指導、ご協力により、より広く、より多くの収集を続け、これをより多くの人々に有効にご利用戴けるよう整理し、展示、収蔵、発信して参ります。

博士生誕の地菖蒲町は、五月から六月、花菖蒲とラベンダーが見頃です。是非「本多静六記念室」をご高覧戴きたくご案内いたします。

終りになりますが、今年度から記念する会の事務局が左記の場所へ移転致しましたのお知らせします。

【編集発行】本多静六博士を記念する会

〒346-1011 埼玉県菖蒲町上大崎820
菖蒲町町史編さん室内 電話0480（85）7161 FAX0480（85）7376